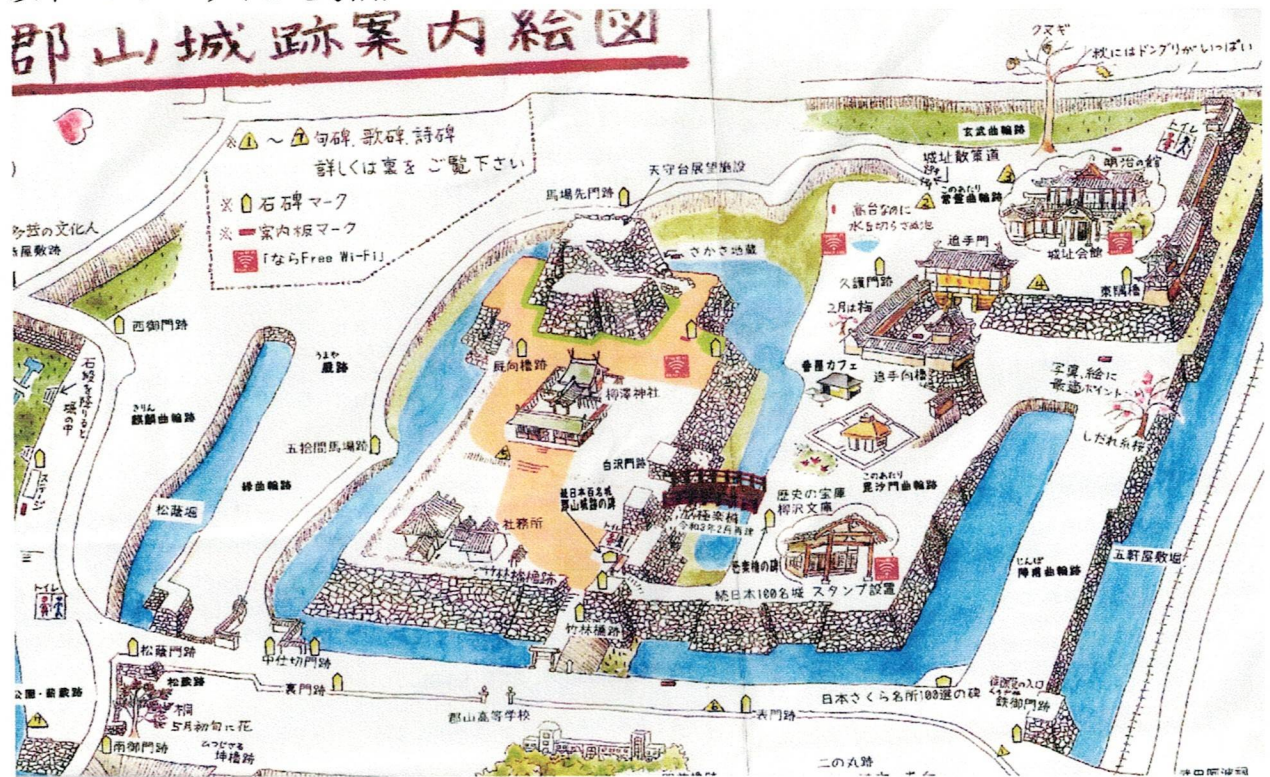


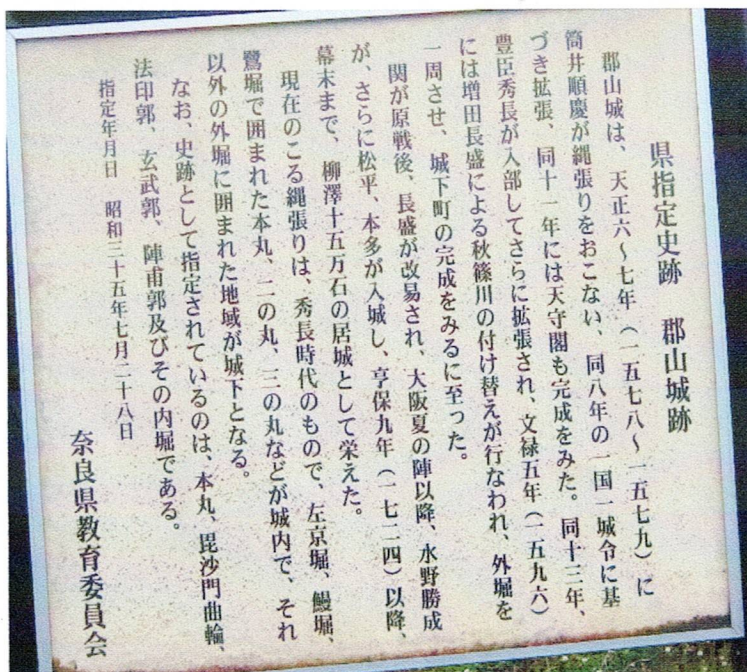
令和6年第1回・現地バス研修「大和郡山城跡と城下町」

2026年NHK大河ドラマは「豊臣兄弟」に決まりました。そこで、関ヶ原歴史を語る会は先取り学習として、豊臣秀吉の戦の時の補佐役であった弟羽柴秀長（兄秀吉とは同父・異父の説有り）が第3代城主になった大和郡山城跡を見学に6月25日に行ってきました。

以下パンフレットから引用



郡山城の歴史



郡山城の築城は天正8年(1580年)、筒井順慶(第2代城主)が筒井から郡山に移ったときに始まる。

天正13年(1585年)8月には、羽柴秀長が郡山城に入城。秀長は紀伊、和泉、大和の三国を百万石の太守・大納言として城の大拡張工事を行う。壮大な高石垣は洗々しい野面積みで、近くの石がないため、寺院の礎石、庭石、五輪塔、石地藏などが用いられる(転用石材)。

また、秀長は城下町繁栄のため、奈良や堺の商人や職人等を郡山に呼び

寄せ箱本十三町をつくる。箱本十三町は、免税（地子免除）とする代わりに一か月の当番制で自治活動（防火・伝馬・治安維持等）を行う「箱本制度」を導入した町として知られている。

秀長の死後、増田長盛（第4代城主）が20万石で入城し、秋篠川の付け替えや溜池をつないで周囲が50町13間（約5.5km）の外堀を完成させた。

徳川に時代となって水野勝成（第9代城主）、松平忠明（第14代城主）、本多政勝（第11代城主）、松平信之（第13代城主）、本多忠平（第9代城主）など徳川譜代の城主の後、享保9年（1724年）柳澤吉里（第19代城主）が甲府より15万石で入城し6代（以下4代は、信鴻・保光・保泰・保興）145年間続く。明治2年（1869年）、柳澤保申が最後の藩主であったときに版籍奉還となり、明治6年（1873年）に政府の方針により城郭がすべて入札売却される。

大和・郡山城歴代城主

代	城主	入城年	代	城主	入城年
1	郡山衆	10世紀末	13	松平信之	延宝7年(1679年)
2	筒井順慶	天正8年(1580年)	14	本多忠平	貞享2年(1685年)
3	豊臣秀長	天正13年(1585年)	15	本多忠常	
4	豊臣秀保	天正19年(1591年)	16	本多忠直	
5	増田長盛	文禄4年(1595年)	17	本多忠村	
6	大久保長安	奈良奉行 城地在番	18	本多忠烈	
7	山口直友	城地在番	19	柳沢吉里	享保9年(1724年)
8	筒井定慶	慶長19年(1614年)	20	柳沢信鴻	
9	水野勝成	元和元年(1615年)	21	柳沢保光	
10	松平忠明	元和5年(1619年)	22	柳沢保泰	
11	本多政勝		23	柳沢保興	
12	本多政長		24	柳沢保申	明治維新を迎える

明石藩・大和郡山藩主
後、徳川幕府老中に
陸奥白河藩本多家2代

4.叔父秀長の養嗣子、
家督後17歳事故死
5.5奉行で大坂城留守居、
裏では家康と通じていた
6.甲斐武田氏から家康家臣
に、全国の金銀山の統括
五代將軍綱吉の側用人
から幕府大老 吉保嫡男
7.家康から対島津取次役で
庄内の乱を和解へ導く

- 10 父奥平信昌・母亀姫奥平松平家の祖
- 11 本多忠勝系 宗家4代

追手向櫓



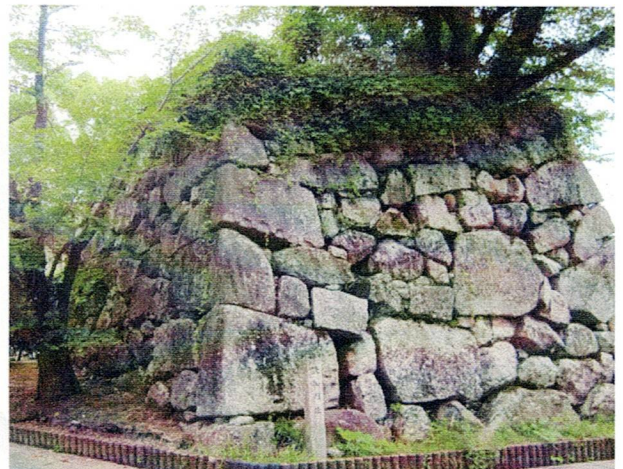
追手門



城址会館 (明治の館)



石垣



天守台



郡山城の天守台は本丸の北端部に位置している。上面で約16×18m、基底部で約23×25m、南北に少し細長い長方形で、高さは約8.5mある。そして、南側に高さ約4.5mの付櫓台が取り付く「複合天守」の形態をとっている。また、天守台の標高は81mで眺望がよく、東側に若草山、東大寺大仏殿、興福寺の五重塔、薬師寺、平城京跡など、また、西側に矢田丘陵、明神山、二上雄岳、葛城山、金剛山などが遠望できる。

天守台の野面積みの石垣には沢山の「転用石

天守台の調査

石垣の解体修理に先立ち発掘調査を実施した。その結果、礎石列や金箔瓦が出土し、豊臣政権期に1階が7×8間規模の天守が建っていたことが判明した。また、付櫓台で地階を伴う築城時の入口を確認した。織豊期城郭の天守の地下構造の様相が判明しているものは少なく、貴重な成果となった。

北面、西面石垣の一部が大きく孕み、崩落の危険があったため約100㎡を解体し、元通り積み直した。解体修復は空積みという伝統的技法で行われた。使用されている石材はほとんどそのまま再使用した。裏込めからは五輪塔などの転用材が600点あまり出土した。



在」が積み込まれていて、なかでも天守台北面石垣の築石としてさかさまに積み込まれている「逆さ地蔵」が有名である。

平成25年(2013年)度から、崩落の恐れがあった天守台に石垣の修復と、展望施設の整備がおこなわれる。それに先立って発掘調査で、天守の礎石列、金箔瓦等が見つかり、1階部分が7×8間の天守が豊臣政権期に確かに建てられたことが確認される。



大納言塚



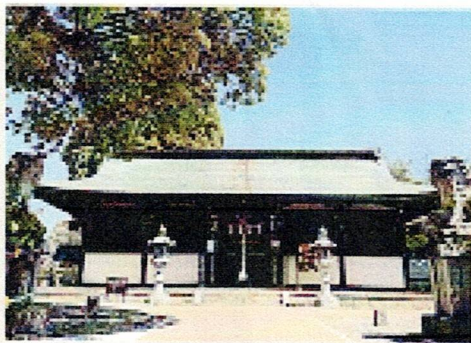
天正19年(1591年)1月22日、郡山城内で没した秀長(享年51歳)は、ここに葬られた。当初、今の芦ヶ池近くに豊臣秀吉が菩提寺大光院を建立し、院主に京都大徳寺の古溪和尚を当てて墓地の管理と菩提を弔った。豊臣家が滅んだあと、大光院は藤堂高虎によって大徳寺の塔頭(たちゅう)として京都に移築され、秀長の位牌は東光寺(のちの春岳院)に委託された。その後墓地は荒廃したが、安永6年(1777年)、位牌菩提寺春岳院の僧、永隆や訓祥が郡山

町中の協力を得て、外廻りの土塀をつくり、五輪塔を建立した。五輪塔は高さ2mで、地輪の表面には、戒名「大光院殿前垂相春岳紹榮大居士」と刻し、台座には「春岳院現住法院訓祥、郡山内町中建立之」と刻む。

残念ながら、バスに乗る時間が迫ったため大納言塚は行けなかった。

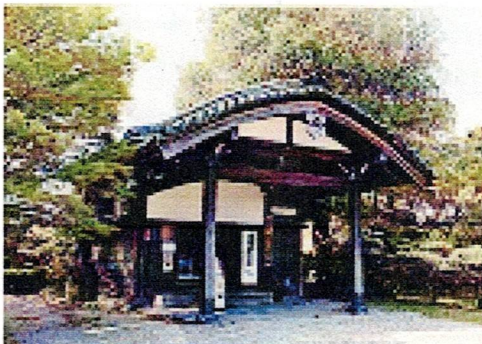
極楽橋

令和3年(2021年)、極楽橋が明治6年(1873年)の郡山城廃城以来150年ぶりに再建される。天守曲輪と東側の毘沙門曲輪を繋ぐ橋で、江戸時代は本丸登城のための正式な入口となる重要な橋だとされている。



柳澤神社 (城内)

明治13年(1880年)、旧藩士によって創建。祭神は柳澤藩の開祖柳澤吉保公。



柳澤文庫 (城内)

柳澤家から寄贈された歴代藩主の書画・和歌や古文書を所蔵し、郡山城主柳澤ゆかりの企画展・特別展を開催している。

注 ; 写真はパンフレットから (撮ることができなかった)

うぐいす餅 (エピソードはネットから)



紀州征伐、四国征伐の功績によって、秀長は秀吉から大和一国を領地として与えられました。これを受けて、秀長は兄を大和に招いて茶会を催します。ありきたりの茶菓子では、兄を驚かせることはできない。そう考えた秀長は、お抱えの菓子職人である菊屋治兵衛に「めずらしい菓子を用意してほしい」と頼みます。

これは大変なお役目を仰せつかったぞと治兵衛は思案し、これまでになかった菓子をつくり出します。

菊屋は、ひとくちサイズの餅でつぶあんを包み、きなこをまぶした餅菓子を用意しました。

これを食べた豊臣秀吉は、うまい！と笑みを浮かべ「うぐいす餅もちと名付けよ」と、たいそう気に入って商品名まで付けました。

兄秀吉をもてなすため菊屋治兵衛につくらせた粒あんきな粉餅、それが今日も伝統製法で作られている。

豊臣秀長の生涯(ネットから)

豊臣秀長は西暦 1540 年～1591 年（天文 9 年～天正 19 年）まで生存しました。戦国時代中期から後期に活躍した武将です。

- | | | |
|------|------|---|
| 1540 | 1 歳 | 竹阿弥の子として尾張国に生まれる。 |
| 1564 | 25 歳 | 兄・秀吉にスカウトされる。農夫をやめて織田信長に仕える。
改名 → 木下（小一郎）長秀 |
| 1570 | 31 歳 | ”金ヶ崎の戦い” 朝倉義景との戦に参加。兄・秀吉と最後尾を担って信長本隊を退却させる。 |
| 1572 | 33 歳 | 浅井家臣、宮部城主・宮部継潤を調略する。 |
| 1573 | 34 歳 | ”一乗谷城の戦い” 朝倉義景との戦に参加。朝倉家滅亡
”小谷城の戦い” 浅井久政・長政父子との戦に参加。浅井長政の妻・市と 3 人の娘を救出する。浅井家滅亡
兄・秀吉が近江国・長浜城の城主となる。城代を務める。 |
| 1574 | 35 歳 | ”第 3 次長島一向一揆” 一向宗門徒の殲滅戦に参加。篠橋砦を攻める。 |
| 1575 | 36 歳 | 改名 → 羽柴長秀 |

- 1577 38 歳 兄・秀吉が中国地方の平定を任じられる。秀吉から但馬国の平定を任される。
”竹田城の戦い”太田垣輝延が籠る山名領・竹田城を攻め落とす。竹田城の城代になる。
- 1578 39 歳 ”三木合戦”別所長治との戦に参加。
- 1579 40 歳 淡河定範が籠る淡河城を攻めるが、奇襲により敗れる。定範が後退したため三木城の補給路を分断することに成功。
但馬国から丹波国に侵攻する。綾部城を陥落させる。
”第2次黒井城の戦い”明智光秀の指揮下で黒井城攻めに参加。
- 1580 41 歳 山名堯熙の有子山城攻めに参加。
但馬国・有子山城に入る。
- 1581 42 歳 *藤堂高虎に小代一揆の討伐に向かわせる。
”第2次鳥取城攻め”吉川経家との戦に参加。鳥取城を包囲する陣城を指揮する。
- 1582 43 歳 ”備中高松城の戦い”毛利輝元との戦に参加。鼓山に陣を張る。
主君・織田信長が死亡。【本能寺の変】
”山崎の戦い”明智光秀との戦に参加。黒田官兵衛と天王山に布陣。松田政近らと交戦する。
- 1583 44 歳 ”賤ヶ岳の戦い”柴田勝家との戦に参加。
兄・秀吉から播磨国と但馬国を拝領する。
播磨国・姫路城と但馬国・有子山城を居城にする。
- 1584 45 歳 ”小牧・長久手の戦い”織田信雄&徳川家康との戦に参加。松ヶ島城を開城させる。織田信雄との講和をまとめる。
- 1585 46 歳 ”第2次紀州征伐”雑賀衆、根来衆の討伐戦に参加。
甥・羽柴信吉（秀次）と副将を務める。
兄・秀吉から紀伊国、和泉国など64万石を拝領する。
紀伊国・和歌山城を築城、居城にする。
”四国征伐”総大将として長宗我部氏の討伐に向かう。阿波国から四国に上陸し、一宮城、岩倉城などを落とす。
長宗我部元親を降す。
兄・秀吉から大和国を拝領する。所領が100万石を超える。
大和国・郡山城を居城にする。参議に就任。
- 1586 47 歳 盗賊の追補を通達。【廊坊家文書】 検地を行う。
5か条からなる掟を制定。【法隆寺文書】
”北山一揆”奥熊野の地侍の一揆を鎮圧する。
権中納言に就任。改名 → 豊臣秀長
”九州征伐”日向表陣立の総大将として島津氏の討伐に向かう。
- 1587 48 歳 ”根白坂の戦い”高城を包囲。根白坂に砦を築いて島津軍を迎撃、壊滅させる。島津家久を降伏させる。

- 権大納言に就任。
- 1588 49 歳 材木管理をしていた代官・吉川平介の着服が発覚。
これに兄・秀吉が激怒する。
- 1590 51 歳 兄・秀吉が小田原征伐に向かう。畿内の留守を預かる。
豊臣秀吉の天下統一が成る。
- 1591 52 歳 大和国・郡山城で病死。

大和郡山市は「金魚のふる里」で有名（パンフレットから）

金魚の歴史と現況

今から約2000年前、中国南部地方で野生のフナの中から赤色のものが発見され、これを原種として、変種の選別淘汰の末、今日の金魚に至っています。

我が国には、文亀2年（1502年）、室町時代中頃、中国から渡来したというのが定説のようです。当時はもっぱら貴族、富豪のはなはだ珍奇な愛玩物として飼われ、庶民の間で流行したのは、明治年間と言われています。

大和郡山市における金魚養殖の由来は、享保9年（1724年）に柳澤吉里候が甲斐の国（山梨県）から大和郡山へ入部のときに始まると伝えられています。

幕末の頃になると、藩士の副業として、明治維新後は、職禄を失った藩士や農家の副業として盛んに行われるようになりました。もっともこれには最後の大和郡山藩主柳澤保申候のおしめない援助があったことが大きいと言われています。

また、これら歴史的な背景に加え、自然条件として水質、水利に恵まれた農業用溜池が数多くあり、溜池に発生する浮遊生物（ミジンコ類）が金魚の稚魚の餌に適していたことなど、有利な条件が備わっていました。

昭和40年代は経済発展と養殖技術の進歩に伴い生産量が年々増加し、国内はもとより欧米諸国や、東南アジアなど外国まで輸出されました。

近年は高齢化に伴う生産者の減少などで生産量は減少したものの、養殖農家約40戸、養殖面積約50haで、年間金魚約4.300万匹が生産されています。

また、金魚品評会が毎年3月末桜花満開の頃、金魚にゆかりの深い柳澤神社で行われ、市民はもちろん近郊の愛好家にも好評を博しています。平成24年、金魚が「奈良県のさかな」に選定されました。

最後に、今回の研修で豊臣秀吉の弟羽柴秀長という武将の生涯を知り、大和郡山城の歴史を知ることができました。大和市が金魚で有名とは全く知りませんでした。

これで、2年後のNHK大河ドラマ「豊臣兄弟」の予習ができたような気がします。

秀長は秀吉のことをきっと「兄者」と呼びます。